資料３－１

(仮)足立区読書活動推進計画

素案

**はじめに**

**目　次**

計画のあらまし

[第１章　共通理念 1](#_Toc22840377)

[**１　人生100年時代を生き抜くために** 1](#_Toc22840378)

[**２　文化・読書・スポーツの可能性** 2](#_Toc22840379)

[第２章　計画の考え方 4](#_Toc22840380)

[**１　本計画における読書の定義** 4](#_Toc22840381)

[**２　計画の目指す将来の姿** 4](#_Toc22840382)

[**３　計画の位置づけと計画期間** 4](#_Toc22840383)

[**４　計画の推進体制** 6](#_Toc22840384)

[第３章　現状と課題 9](#_Toc22840385)

[**１　現状** 9](#_Toc22840386)

[**２　課題** 13](#_Toc22840387)

[第４章　施策展開 16](#_Toc22840388)

[**１　施策体系** 16](#_Toc22840389)

[**２　重点項目** 18](#_Toc22840391)

[**３　施策と事業** 19](#_Toc22840392)

**第５章　資料編**

**１　事業一覧（令和２年度）**

**２　関連する国等の動向**

**３　関連条例等**

**４　計画策定の経過**

**５　計画策定に向けての調査事項**

# **計画のあらまし**

**課題**

**目指す将来の姿**

**共通理念　 楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる**

①　約半数の区民が読書をしていない

②　70才以上では加齢とともに本を読まなくなる人が多い

③　約半数の子どもが本を読んでおらず、成長するにつれて本を読む子どもが減少する

④　読書活動を支える人材とスキルアップの機会が不足している

⑤　図書館の蔵書や機能の検討が必要である

⑥　身近な場所や生活動線上で本を手に取る場所がない

年齢や性別、障がいの有無等に関わらず、区民のだれもが身近なところで、読書を気軽に楽しめる環境が整っている

子どもの頃から区民が読書に親しみ、読書を通して言葉を学び、知識を深めるとともに、情報を活用する力と、自分自身の考えをより具体的に形成していく力が高まっている

読書を通じて、区民が自らの考えを持ち、多様な価値観に触れることで、他人の考えを尊重できる豊かな心を育み、教えあい、学びあい、人と人とがつながっていく共生社会

# 

**施　策**

**施策の柱**

**柱１**

**子どもの読書習慣につながる**

**機会の充実**

**施策１-１　【←課題③】**

**乳幼児が本に親しむ機会の充実 p.19**

**施策１-２　【←課題③】**

**子どもの読書習慣が身に付く活動の推進 p.20**

**施策１-３　【←課題③】**

**本に親しみ、学ぶための学校図書館の充実と活用 p.21**

**施策１-４　【←課題③】**

**子どもや保護者に読書の楽しさや大切さを伝える啓発活動と情報発信**

**p.23**

**施策２-１　【←課題①⑤】**

**区立図書館資料の充実と活用 p.26**

**柱２**

**区民の読書に対する関心を**

**高め支える環境の充実**

**施策２-２　【←課題①②】**

**障がいや言語などにかかわらず読書に親しめる図書資料などの整備 p.27**

**柱３**

**読書活動を通じた**

**人と人とのつながりの形成**

**施策３-２　【←課題①③④】**

**読書活動推進のための多様な連携と協創の推進 p.32**

**施策３-１　【←課題④】**

**読書活動にかかわる人材の育成と団体の支援 p.31**

**施策２-３　【←課題①⑤⑥】**

**区立図書館などの空間、サービス、情報発信の充実 p.28**

あ

# 第１章　共通理念

**第１章　共通理念**

## **１　人生100年時代を生き抜くために**

英国のリンダ・グラットン教授らによれば「2007年に日本で生まれた子どもの半分は、107年以上生きる」※[[1]](#footnote-2)とされるなど、日本人の寿命はこれまで以上に延伸することが予想され、国も「人生100年時代構想会議」を立ち上げ準備に入りました。

長くなった一生をできる限り健康で、心豊かに生き抜くことができる地域社会が求められるのは当然のことですが、持続可能な自治体運営の観点からも、その実現は喫緊の課題です。そこで当区では、健康な心と体を基本としつつ、生きがいや充実感をもって日々を心豊かに生きていくための不可欠な要素として、以下の6点を掲げました。

１　自分のやりたいことに取り組もうとする意欲

２　何歳になっても知らないことを知り、学ぼうとする態度

３　新しいことにチャレンジし、始めようとする好奇心

４　異なる考え方や価値観を尊重しようとする姿勢

５　まわりの人の役に立とうとする気持ち

６　地域とのつながりを持とうという思い

しかしながら、こうした要素を必ずしも皆が生まれながら持ち合わせているわけではありません。日常の生活を通じて各人が育み、磨き上げることも必要となります。そのきっかけとなりうるのが、文化・読書・スポーツの3分野と考え、計画の一体的な策定に着手しました。図書館・体育館等が一体となった複合施設が多数存在する当区にとって、分野横断的な発想は、施設のさらなる有効活用を通じて、施策の一層の充実につながります。

北千住が住みたい街にランクインするなど、徐々に当区のイメージは変わりつつあり、子育て世代を中心に人口も現在、増加傾向にあります。今後はさらに、身近なところで文化・読書・スポーツに親しむ機会を設け、それらを楽しむ区民を増やし、元気でいきいきとした地域社会の実現を目指します。足立区に住んでいれば心身ともに自ずと健康で心豊かに生活できる。だからこそ「住みたい」「住み続けたい」と誰もが思う持続可能な自治体へと、着実に歩みを進めていきます。

## **２　文化・読書・スポーツの可能性**

### **（１）「楽しさ」との出会いが原点**

日々の生活では、仕事・子育て・介護等、様々な場面でストレスを感じることも多々ありますが、「楽しい」と思える「何か」を見つけることで、気分を変えたり、困難を乗り越えたりすることができるのではないか？その「何か」に出会える最良のきっかけとなるよう、文化・読書・スポーツの計画策定にあたり、「楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる」を共通理念に掲げ、相互の関連を意識しつつ施策を組み立てていきます。

「楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる」

■図表１　共通理念の検討プロセス

第５回推進会議

(平成30年８月)

第４回までの議論を踏まえ、共通理念素案「楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる」を策定

第４回推進会議

(平成30年７月)

第３回の議論を踏まえ、「人生100年時代を心豊かに生きるための６つの要素」について意見交換を実施

第３回推進会議

(平成30年６月)

第２回の議論を踏まえ、人生100年時代を心豊かに生きるための「25のキーワード」「６つの人物像」について意見交換を実施

第２回推進会議

(平成30年５月)

「人生100年時代を豊かに生きるひと」について意見交換を実施

### **（２）共通理念は心豊かに生きるためのキーワード**

理念にこめた心豊かに生きるためのキーワードは次の３つです。

１　楽しさに気づく

２　楽しさを深める

３　楽しさを広げる

「楽しさに気づく」が全ての始まりです。文化・読書・スポーツに親しむきっかけは、それぞれの体験を通じて味わう喜びや感動、楽しいと思う感情だからです。

その感情が徐々に高まってくると、次にそこから一歩踏み出して、文化・読書・スポーツ活動に自ら主体的にかかわろうとする思いが生まれます。感情が深まることが能動的な活動につながります。

そして、より積極的な活動を通じて多くの人々と楽しさを共有し、楽しさの輪が「広がる」ことで、さらに各人に新たな気づきが生まれます。

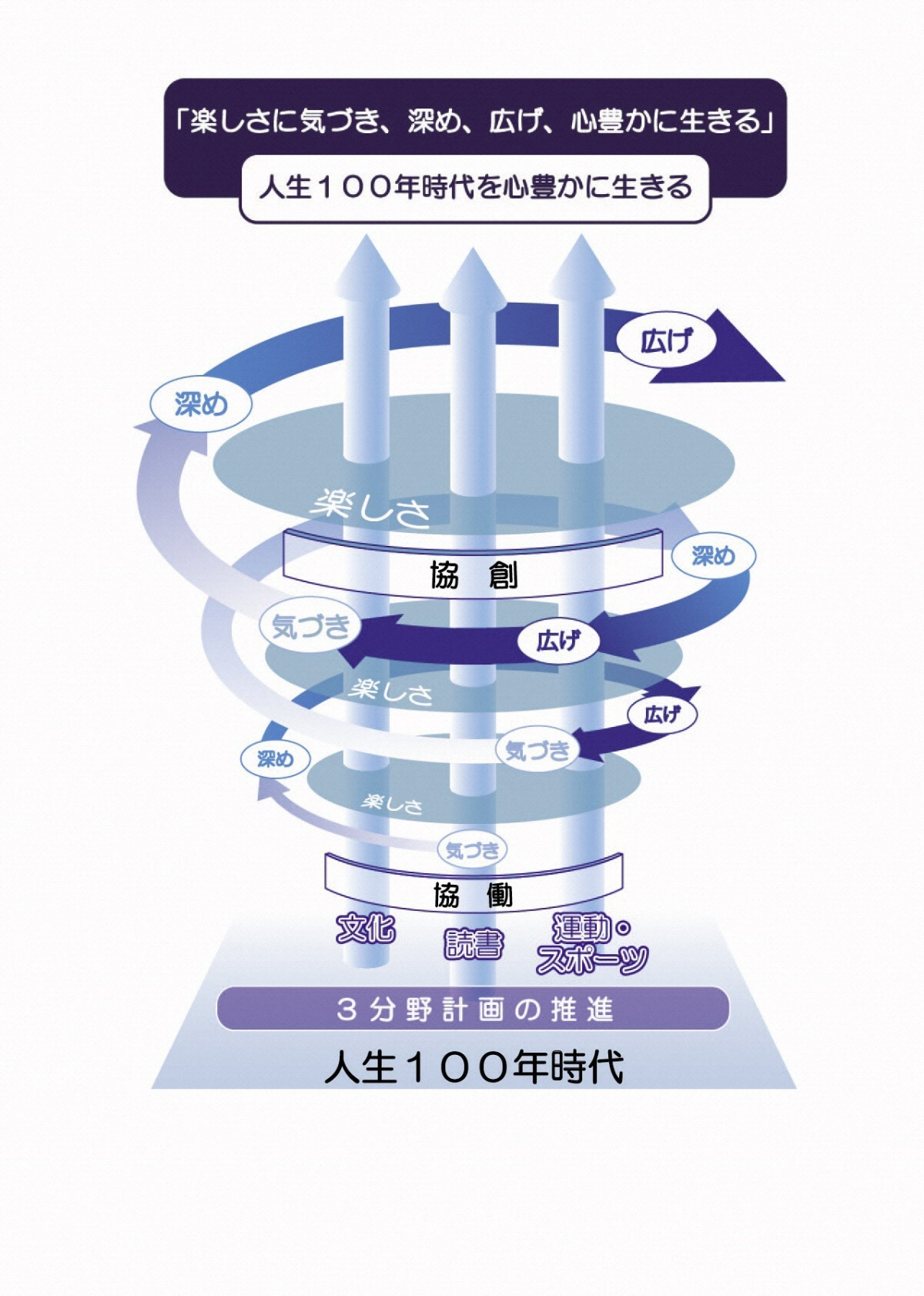
本計画の策定を通じ、そのようなスパイラルを地域に巻きおこせるような施策展開を目指します。

### **（３）協働・協創※[[2]](#footnote-3)による文化・読書・スポーツの推進**

**第１章　共通理念**

文化・読書・スポーツの３分野を通じて区民一人ひとりの心豊かな生活を実現するためには、単に区のみが主体的に行動するばかりでなく、学校や関係団体、事業者などが当事者意識を持って、様々な形で連携していくことが不可欠です。

区は多様な主体による活動の状況を把握しつつ、各活動をゆるやかにつなぐコーディネーター等の役割も担うことで、協働・協創による文化・読書・スポーツ施策の推進を図っていきます。

　■図表２　共通理念のイメージ

# **第２章　計画の考え方**

## **１　本計画における読書の定義**

本計画では読書を、電子書籍やインターネット上に公開されている小説や読み物などを含めて、本を読むことと定義します。教科書に掲載された小説や読み物など、新聞、雑誌、そしてマンガを読むことも含めて広く捉える場合もあります※[[3]](#footnote-4)。

また、読書活動とは、上記の読書に加え、辞書や事典、インターネットを用いた情報検索・収集、学習と普及啓発なども含む広がりを意味します。

## **２　計画の目指す将来の姿**

共通理念を踏まえ、読書分野において目指すべき姿を次のように定めます。

○　年齢や性別、障がいの有無等に関わらず、区民のだれもが身近なところで、読書を気軽に楽しめる環境が整っている

○　子どもの頃から区民が読書に親しみ、読書を通して言葉を学び、知識を深めるとともに、情報を活用する力と、自分自身の考えをより具体的に形成していく力が高まっている

○　読書を通じて、区民が自らの考えを持ち、多様な価値観に触れることで、他人の考えを尊重できる豊かな心を育み、教えあい、学びあい、人と人とがつながっていく共生社会

## **３　計画の位置づけと計画期間**

### **（１）計画の位置づけ**

図書館計画と子ども読書活動推進計画を一本化して、読書活動推進計画とします。本計画は、区の最上位計画である足立区基本構想・基本計画を踏まえ、足立区文化芸術推進計画・足立区運動・スポーツ推進計画と一体的な取り組みを行っていきます。

また、子どもの読書活動推進に関しては、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、足立区教育振興ビジョンならびに足立区子ども・子育て支援事業計画と連携を図って取り組んでいきます。

■図表３　計画の位置づけ

足立区基本計画

施策群③　生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動を実践できる仕組みをつくる

足立区基本構想

**ひと分野**

**理念を反映**

足立区教育大綱

　　 ・子ども・子育て支援事業計画

　　 ・子どもの貧困対策実施計画

　　 ・足立区教育振興ビジョン

区の主な

関連計画

　　・子供の読書活動の推進に関する基本的な計画

　　・子どもの読書活動の推進に関する法律

国

**(仮) 足立区**

**読書活動**

**推進計画**

(仮) 足立区

運動・スポーツ

推進計画

(仮) 足立区

文化芸術

推進計画

共　通　理　念

**整　合**

**連　携**

**第２章　計画の考え方**

### **（２）計画期間**

本計画では令和２年度から令和７年度の６年間を計画期間として、区民の読書活動の推進に取り組んでいきます。なお、計画の中間年にあたる令和４年度に事業成果と進捗状況を検証した上で、必要に応じて計画内容の見直しを行います。

■図表４　計画期間

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度 | ２ | ３ | ４ | ５ | ６ | ７ | ８ | ９ |
| 足立区基本構想　※30年後を見据えて作成 |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 足立区基本計画 |  |  |  |  |  |  |  |  |
| (仮)足立区読書活動推進計画 |  |  | 中間検証 |  |  |  |  |  |
| (仮)足立区文化芸術推進計画 |  |  |  |  |  |  |  |  |
| (仮)足立区運動・スポーツ推進計画 |  |  |  |  |  |  |  |  |

## **４　計画の推進体制**

### **（１）推進主体と役割**

計画の推進にあたっては、ライフステージごとの読書活動とのかかわりを踏まえつつ、区立図書館を中心として、学校・学校図書館、就学前施設、家庭、民間団体・事業者等が各々の役割を担うとともに、協働・協創による取り組みを進めていく必要があります。各主体の役割との考え方は以下のとおりです。

**区・区立図書館**

　○　区立図書館は、だれもが本や情報にアクセスできる場として、あらゆる区民の読書活動を支えます。また、読書に対する楽しさを広め、関心を高める情報発信にも努めます。

　〇　乳幼児期からの読書習慣の定着に取り組むとともに、保護者に対して読み語りなどを通じた愛着形成の重要性と、保護者自身の読書習慣が子どもの読書習慣に影響を与えることを周知していきます。

　○　子どもや中高生が安心して本を読み、本を活用した学習をする場を提供します。

　○　学校及び学校図書館と連携して読書活動や学習活動の支援や情報提供を行います。

　○　読書活動にかかわる区民や団体をつなぎ、情報や知識の共有、相互の連携した活動が行えるような支援や機会づくりについて検討します。

**学校・学校図書館**

　○　児童・生徒が読書に親しみ、生活に必要な言葉を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養います。

　○　言語活動の充実や学校図書館の計画的な利活用による児童・生徒の読書活動の充実を通して、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力の育成・向上を図ります。

　○　児童・生徒が読書習慣を身に付け、自主的・自発的に読書を楽しみ、その幅を広げていけるよう、適切な支援とそのための環境を整備します。

　○　学校図書館の読書センター・学習センター・情報センターとしての三つの機能を利活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの多様な学習・指導を通じて児童・生徒の情報活用能力、問題解決能力等を育みます。

**幼稚園、保育園、こども園**

　○　幼児が絵本や物語等に親しみ、読書の楽しさや、想像・表現する面白さを知る機会を提供します。

　○　保護者に対し、読み聞かせ等の大切さや意義を広く普及・啓発していきます。

**第２章　計画の考え方**

**区民**

　○　乳幼児の頃から本に親しみ、生涯にわたって読書を楽しむ生活が期待されます。

**民間団体・事業者等**

　○　本に親しみ、読書を楽しむための多様な機会を提供し、区民の読書活動を支えます。

　○　情報や知識の共有や、質をともに高め合うような相互の連携を図ります。

■図表５　推進主体とライフステージ

図表が入ります

### **（２）計画の評価**

本計画で掲げた各施策の着実な推進のためには、進捗状況の評価と必要に応じた施策の改善が必要です。各施策の進行管理については、ＰＤＣＡサイクル、すなわちＰｌａｎ（計画）－Ｄｏ（実行）－Ｃｈｅｃｋ（検証）－Ａｃｔｉｏｎ（改善）のマネジメントサイクルを用い、毎年度事業のチェックと改善を行って、着実な事業展開を図ります。

そのため、足立区文化芸術推進計画・足立区読書活動推進計画・足立区運動・スポーツ推進計画を一体的に管理・評価する組織として「（仮）文化・読書・スポーツ推進委員会」を設置し、数値目標や事業の取組実績に基づき、本計画の推進と進行管理の徹底を図ります。

■図表６　ＰＤＣＡサイクル

**Ｐｌａｎ（計画）**

**PDCAサイクル**

**Ｃｈｅｃｋ（検証）**

**Ａｃｔｉｏｎ（改善）**

**Ｄｏ（実行）**

**(仮)文化・読書・スポーツ推進委員会**

# **第３章　現状と課題**

**第３章　現状と課題**

## **１　現状**

### **（１）区立図書館について**

足立区には、15の区立図書館の他、本の貸出返却サービスを行う図書受渡窓口を７ヶ所に設置しています。過去５年間の利用状況は図表７のとおりです。

■図表７　過去５年間の図書館利用の推移

７

７

７

７

（注１）蔵書数推移（図表７－１）

平成28年度に、長期未返却本への対応として議決を経て約２万冊の返還請求権を放棄し、蔵書から除籍したため、28年度に大幅に減少した。

（注２）利用登録者数推移（図表７－３）

平成30年度に過去５年間利用実績が無い登録者を削除したため、30年度に減少した。

（注３）来館者数及び貸出点数推移（図表７－２、７－４）

平成28年度から東和・江北・興本・旧宮城図書館の大規模改修による休館が続いているため来館者数、貸出点数に影響が出ている。

■図表８　区立図書館マップ



### **（２）区のこれまでの取り組み**

**第３章　現状と課題**

区では、足立区図書館計画の中で「子どの読書活動推進と資源の重点投入」「ＩＴを活用したサービスの向上」を重点的に取り組む施策と設定し、第二次子ども読書活動推進計画の施策と合わせて取り組んできました。

ア　足立区図書館計画（平成21年３月策定）

「足立区図書館計画」では区民に役立つ図書館をキーワードに、区民一人当たりの貸出冊数6.1冊を主な目標に掲げ、以下の施策に取り組んできました。

【役立つ図書館となる５つの柱】

１　図書館の基本となる所蔵資料の充実

２　図書館システム・図書館環境の整備と充実

３　各種図書館サービスの充実

４　図書館利用を促す情報発信

５　区民への支援、協働の推進

（ア）図書館の基本となる所蔵資料の充実

資料の充実に取り組み、平成30年度の蔵書数は一般書約122万冊、児童書約43万冊となっています。区内図書館内の相互貸借や他の自治体、東京都との連携を図り、区民への様々な資料提供に努めてきました。

（イ）図書館システム・図書館環境の整備と充実

平成22年度からの地域図書館の改修工事に合わせて、書架の配置を工夫するなど館内の環境整備や親子で使い易い図書館を目指して幼児コーナーの整備を行ってきました。

（ウ）各種図書館サービスの充実

図書予約システムの充実と駅の近くでの図書受渡窓口（ギャラクシティ・東京電機大学）を整備し、図書受渡窓口の利用は平成21年度の2.1万冊から平成30年度は18.8万冊と大きく増加しています。しかしながら図書館全体での貸出数は減少傾向にあります。

（エ）図書館利用を促す情報発信

各図書館の情報紙の発行とともに、図書館ホームページの充実に取り組みました。

（オ）区民への支援、協働の推進

地域図書館の指定管理化に取り組み、平成27年度には全ての地域館が指定管理者に移行しました。

イ　第二次足立区子ども読書活動推進計画（平成21年３月策定）

「第二次足立区子ども読書活動推進計画」では①「読書を楽しむ子ども」、②「豊かな心と言葉を持つ子ども」、③「情報を活用できる子ども」を計画の目指す子ども像とし、１か月間に1冊も本を読まない子どもの割合、小学生８％・中学生10％を主な目標に掲げ、以下の施策に取り組んできました。

【子ども読書活動推進のための３つの柱】

１　子どもの関わる様々な場所での読書環境の整備

２　学校における読書環境の整備

３　子どもの読書活動推進に関わる人材の育成・活動支援

（ア）子どもの関わる様々な場所での読書環境の整備

小さな子どもを連れて図書館が利用できるよう、平成24年度から区立図書館で「赤ちゃんタイム」を実施しました。また、平成27年度より「あだちはじめてえほん」事業に取り組み、乳幼児期からの読書習慣の定着を図ってきました。

（イ）学校における読書環境の整備

学校図書館では国が示す図書標準冊数を全小・中学校で達成しました。また学校図書館支援員の配置を進めてきました。

（ウ）子どもの読書活動推進に関わる人材の育成・活動支援

学校図書館ボランティア講座、読み語り講座を開催し、修了者を団体等の活動に繋げてきました。担い手の不足やボランティアの高齢化が問題になっています。

区民一人あたりの貸出数は平成30年度実績で4.6冊に留まっています。また、１か月に一冊も本を読まない子どもの割合は令和元年度には小学校で26.0％、中学校では38.5％となっており、大人、子どもともに長期的な読書離れの傾向に歯止めがかけられていない状況です。

## **２　課題**

**第３章　現状と課題**

平成30年度に実施した「文化・読書・スポーツに関するアンケート調査」の結

果、次のような課題が明らかになりました。

**（１）約半数の区民が読書をしていない**

一般向けアンケート調査**※**[[4]](#footnote-5)では、16歳以上の区民のうち、過去１か月間に本を読んだ人は54.3％でした。

**（２）70代以上では加齢とともに本を読まなくなる人が多い**

一般向けアンケート調査では、過去１か月間に本を読んだ人の割合は60歳代をピークに少なくなり、70歳代で45.5％、80歳以上で37.2％と、年齢とともに減少していきます。

**（３）約半数の子どもが本を読んでおらず、成長するにつれて本を読む子どもが減少する**

小・中学生アンケート調査※[[5]](#footnote-6)では、読書に関心があり、過去１か月間に本を読んだ児童・生徒は50.0％でした。学年別にみると、小学５年生は57.5%、中学１年生は42.7%となっており、学年が上がるにつれ本を読む子どもが減少していることが分かりました。

→　学校現場のヒアリングの結果、学習活動や部活動などが優先され、読書に割ける時間的制約があることがわかっています。

→　小中学生に対するアンケート調査の結果では、就学前に読書の習慣があった子どもは85％が過去１か月に本を読んでいたのに対し、習慣がなかった子どもは47.5％と、就学前の読書習慣が、成長後の読書活動に大きな影響をもたらすことが明らかになっています。

→　同アンケート結果では、読書に関心があり、実際に本を読んでいる保護者の子どもは84.7％が過去１か月に本を読んでいるのに対し、そうでない保護者の子どもは61.6％と、保護者の読書習慣が、子どもの読書活動に影響を及ぼすことがわかっています。

**（４）読書活動を支える人材とスキルアップの機会が不足している**

区立図書館での読み語りや学校図書館の運営にかかわるボランティアのほか、地域での読み語りなど、子どもの読書活動を支援する区民活動が行われています。また、区立図書館の障がい者サービスにもボランティアがかかわっています。

多様な区民ニーズに応え、読書活動を推進していくためには、ボランティアの協力が欠かせませんが、活動の新たな担い手が不足しているとともに、活動しているボランティアに対して、十分なスキルアップ機会の提供ができていないことが課題といえます。

**（５）図書館の蔵書や機能の検討が必要である**

小中学生のアンケート調査によると、「図書館に読みたい本があればもっと本を読む」という子どもが2割を占め、学校図書館と区立図書館の役割分担を明確にした上で、蔵書内容の検討を行う必要があります。また、新たな傾向として、図書館を単なる読書や学習の場のみならず、「居場所」として考える傾向が強まりつつあることが、区民座談会などを通じて明らかになっています。

**（６）身近な場所や生活動線上で本を手に取る場所がない**

一般向けアンケート調査においては、約２割の人が本を読むきっかけとして「身近な場所で本を手に入れるようになること」と回答しています。

インターネットによる書籍の購入や電子書籍の閲覧などが普及する一方、書店の減少など身近な場所で直接本に触れる機会は減少傾向にあります**※**[[6]](#footnote-7)。社会状況が変化する中で、身近な公共施設や駅の近くで本を手に取れることも、読書をする区民を増やす上で必要なことと考えられます。

**第３章　現状と課題**

# **第４章　施策展開**

## **１　施策体系**

**目指す将来の姿**

**施策の柱**

**共通理念　 楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる**

**柱３**

**読書活動を通じた**

**人と人とのつながりの形成**

**柱２**

**区民の読書に対する関心を**

**高め支える環境の充実**

**柱１**

**子どもの読書習慣につながる機会の充実**

年齢や性別、障がいの有無等に関わらず、区民のだれもが身近なところで、読書を気軽に楽しめる環境が整っている

子どもの頃から区民が読書に親しみ、読書を通して言葉を学び、知識を深めるとともに、情報を活用する力と、自分自身の考えをより具体的に形成していく力が高まっている

読書を通じて、区民が自らの考えを持ち、多様な価値観に触れることで、他人の考えを尊重できる豊かな心を育み、教えあい、学びあい、人と人とがつながっていく共生社会

# 

**第４章　施策展開**

**施策１-１**

**乳幼児が本に親しむ機会の充実 p.19**

・学校図書館支援員の配置

・図書館を使った調べる学習コンクールへの参加【新規】

・調べ学習用図書資料配送サービスの実施【新規】

**施策１-３**

**本に親しみ、学ぶための学校図書館の充実と活用 p.21**

**施策１-２**

**子どもの読書習慣が身に付く活動の推進 p.20**

**施策２-１**

**区立図書館資料の充実と活用 p.26**

**施策２-２**

**障がいや言語などにかかわらず読書に親しめる図書資料などの整備 p.27**

**施策２-３**

**区立図書館などの空間、　サービス、情報発信の充実 p.28**

**施策３-１**

**読書活動にかかわる人材の育成と団体の支援 p.31**

**施策３-２**

**読書活動推進のための多様な連携と協創の推進 p.32**

**施策１-4**

**子どもや保護者に読書の楽しさや大切さを伝える啓発活動と情報発信 p.23**

・図書資料の充実と選定方針の明確化

・区立図書館展示コーナーの充実

・誰もが利用しやすい図書館環境の整備【拡充】

・図書受渡窓口の充実【拡充】

・インターネット環境も活用した図書館情報の発信

・地域学習センターミニコミ紙の発行

・障がい者向け図書資料宅配サービスの拡大【拡充】

・読書が困難な方向けの様々な図書資料の整備

・文化・読書・スポーツ活動協創推進事業【拡充】

・アウトリーチ事業【新規】

・読み語り講座（入門、スキルアップ）の実施

・団体登録者の利用環境の整備【拡充】

・あだち絵本シアター【拡充】

・成長発達に応じた図書の紹介

・家庭への読書活動の推進

・小学生向け図書情報紙の配布

・ティーンズ向け図書情報紙の配布【拡充】

・インターネットによる子ども・ティーンズ情報の提供

・出張おはなし会の実施

・あだち読書通帳の活用【拡充】

・「あだちはじめてえほん」事業の実施【拡充】

・幼稚園、保育園、こども園における読み語りの推進

**施　策　　　　　　　　　　　　　主な事業**

## **２　重点項目**

**（１）施策推進のための横断的視点**

アンケート調査等を通じて、文化・読書・スポーツ施策を推進する上での様々な課題が明らかになりましたが、その解決にあたり、「子どもの頃から」 「身近」 「つながり」という３分野共通の視点が見えてきました。

100年という長い人生において、子どもの頃から生涯に渡って文化・読書・スポーツに親しむためには、就学前から関心を高める取り組みを行っていく必要があります。

そして、関心を持った区民が実際に３分野の活動に親しむためには、身近な所に楽しめる機会や場が設けられていることが重要になります。

さらに、それぞれの活動を深め、広げるには、協働・協創の視点も踏まえ、多様な主体が当事者意識を持ってゆるやかにつながり、様々な形で連携していくことが鍵となります。そうすることで、新たな活動が生まれることが期待できるからです。

**（２）読書分野における重点項目**

ア　アンケート調査の結果では、特に読書分野において、保護者の読書習慣や就学前の読書習慣が、成長後の子どもの行動に大きな影響をもたらすことが明らかになっています。「乳幼児に対する本に親しむ機会の充実」や「子どもや保護者に読書の楽しさを伝える啓発活動と情報発信」に取り組むことで、保護者をはじめとする周囲の大人達が自ら読書に親しみ、読書や読み聞かせの大切さを認識し、子ども達が乳幼児の頃から本に親しめる環境を整えていきます。

イ　同じくアンケート調査から、読書に親しんでいる人は、文化、スポーツに親しんでいる人よりも他分野への関心が比較的高いこともわかっています。読書を「きっかけ」として様々な活動につながるよう、学習センターと体育施設との複合施設としてのメリットを活かして、分野間の連携事業を進めていきます。

ウ　より多くの区民が、子どもの頃から生涯にわたって読書に親しめる環境を整えるために、協創力を発揮して民間施設や出版社、書店などと連携した活動を検討し、実施していきます。

## **３　施策と事業**

**第４章　施策展開**

**施策の柱１　子どもの読書習慣につながる機会の充実**

子どもにとっての読書活動は「子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」（子どもの読書活動の推進に関する法律第二条）です。

そこで足立区では、子どもの発達段階に応じて、家庭、就学前施設、学校、図書館等がそれぞれ読書に親しむ「気づき」となる機会の充実を図ります。

また、子どもの読書に対する動機づけになる情報発信ばかりでなく、保護者に対しても、子どもの読書の大切さや、保護者自身の読書への関心が子どもの読書活動へ影響を与えることを、様々な機会を通じて伝えていきます。

### **施策１－１　乳幼児が本に親しむ機会の充実**

乳幼児期に本に親しむことは言葉を覚えるだけでなく、将来の読書習慣の基礎となります。加えて本を通じて親子がふれあうことで、子どもの愛着形成等にもつながります。区立図書館や保育園等で、乳幼児が本に親しむ取り組みを行うとともに、子育て支援事業や乳幼児健診の機会を捉え、乳幼児が本に触れる機会を作ります。

【主な事業】

「あだちはじめてえほん」事業の実施　拡充 【中央図書館】

乳幼児の読書習慣定着のため、３～４か月健診対象者には、区内の各保健センターにて絵本の配付と読み語りを、１歳６か月健診対象者には、引換券を配付し絵本と交換します。今後、新たに3歳児健診の機会にも読書習慣定着の取り組みを進めていきます。

幼稚園、保育園、こども園における読み語りの推進

【子ども政策課／子ども施設運営課】

公立保育園、区立こども園、私立保育園、私立幼稚園での日常の保育の中で、乳幼児期から本に親しみ読書習慣を身に付けるための読み語りを推進します。

### **施策１－２　子どもの読書習慣が身に付く活動の推進**

子どもの頃からの読書経験は習慣として将来に引き継がれます。

幼児期から言葉の発達や関心の広がりに応じて読書を楽しむことで、読書習慣を身につける機会を作ります。

そのために区立図書館や幼稚園、保育園、こども園、小、中学校、児童館などの子育て施設で、おはなし会や朝読などの読書活動を推進します。また、図書館の利用を通じて将来にわたる読書機会の提供に努めます。

【主な事業】

出張おはなし会の実施 【中央図書館】

小学校・児童館・子育てサロン・保育園等に区立図書館の職員が出向き、本の楽しさを伝え、図書館の利用を促すためにおはなし会を実施します。

「あだち読書通帳」の活用　拡充 【中央図書館】

読んだ本を記録することで、子どもが自ら本に向き合い、さらに読書が習慣化することを目指します。そのために区立図書館だけでなく、幼稚園、保育園、こども園、小学校などと連携して、読書記録を残す「あだち読書通帳」の活用を拡大していきます。

### **施策１－３　本に親しみ、学ぶための学校図書館の充実と活用**

**第４章　施策展開**

学校図書館は、児童・生徒の読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能、児童・生徒の学習活動の支援や、授業の内容を豊かにしてその理解を深める「学習センター」としての機能、児童・生徒や教職員の情報ニーズに対応し、児童・生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成する「情報センター」としての機能を有しています。

また、今後の学校図書館には、読書活動や学習活動、指導等の様々な場面での利活用を通じて、「主体的・対話的で、深い学びの実現」や「言語能力や情報活用能力、問題解決能力等の育成」を支える役割が期待されています。

区では学校図書館の機能の向上と区立図書館との連携を進め、学校図書館が担う役割を果たすべく、以下の視点から学校図書館の充実と活用に取り組んでいきます。

<教育委員会の取り組み>

・　図書資料の充実・整備、及び図書館資料の積極的な利活用

・　読書支援・学習支援など学校図書館を活用するための環境や支援体制づくり

・　学校図書館の利用指導・読書指導・情報活用に関する計画等の策定

・　情報活用能力等の育成を目指した学習・活動機会の提供と充実

<区の取り組み>

・　調べ学習などに必要な図書リストの作成と図書資料の配送サービス

・　学校図書館と協力して、児童図書やティーンズ向けの図書などの情報の共有と児童・生徒への発信

　また、子ども達の居場所としての図書館についても、それぞれの機能を活かした取り組みを進めていきます。

【主な事業】

学校図書館支援員の配置 【教育政策課】

全ての小学校・中学校に学校図書館支援員を配置し、学校図書館の環境整備をはじめ、児童・生徒の読書活動や学習活動を支援・推進します。

学校図書館支援員は司書教諭（図書館担当職員）や教員とともに、学校図書館を活用した教育活動を進めます。また、読み聞かせやブックトーク等の授業支援、調べ学習やレファレンス、図書館オリエンテーション等の学習支援、学校図書館担当教諭の補佐、学校図書館の機能の改善・充実を担います。

図書館を使った調べる学習コンクールへの参加 新規 【教育指導課】

情報活用能力等の育成を目指した学習・活動機会の一つとして、公益財団法人図書館振興財団主催の「図書館を使った調べる学習コンクール」への参加を行い、そのための参加指導・支援に取り組みます。

他の民間団体事業でも参加の機会があれば、積極的に活用していきます。

調べ学習用図書資料配送サービスの実施　新規 【中央図書館】

区立小中学校の調べ学習のために、調べ学習用図書セットを準備し、区ホームページで申し込みを受け付けます。また、各学校で調べ学習用図書が借りやすいように調べ学習用図書の配送サービスを行います。

21

### **施策１－４　子どもや保護者に読書の楽しさや大切さを伝える啓発活動と情報発信**

**第４章　施策展開**

子どもの読書にとって、親など周囲の大人が読書に関心を持つことが重要ですが、読書に関心を持つ保護者は５割を下回っています。また、区民座談会では、子どもの発達に応じた、適切な本を選ぶのが難しいと感じている人が多いことが分かりました。

区立図書館及び幼稚園・保育園や学校では、子どもに読書の楽しさを伝えるとともに、保護者にも、自ら本を楽しむ事や読書に関心を持つことが子どもの読書習慣に影響することを伝えていきます。また、親子で読書に親しめるよう、成長や発達段階に応じた本や子育て期に読める本の紹介を進めていきます。

さらには子育て支援の機会を活用した出産前の保護者への情報提供など、多様なチャンネルを通じた取り組みを進めていきます。

【主な事業】

成長発達に応じた図書の紹介 【子ども政策課／子ども施設運営課】

公立保育園、区立こども園、私立保育園、私立幼稚園で園だよりや保護者会などを通じて読み語りの楽しさや意義を保護者に伝えるとともに、子どもの年齢・興味・関心に合わせた図書の紹介をしていきます。

家庭への読書活動の推進 【教育指導課】

学校だよりや学校図書館だより等により読書の意義を伝えるとともに、学年に応じた図書を紹介すること等を通じて、保護者の読書への関心を深めます。

小学生向け図書情報紙の配布 【中央図書館】

近年出版された児童書の中から、子どもの発達段階ごとに知識や読物等複数の分野の本を紹介する「おもしろい本あつまれ」を作成し、読書に触れる機会を提供します。区立図書館で活用するとともに、区立小学校に配布します。

ティーンズ向け図書情報紙の配布　拡充 【中央図書館】

児童書では物足りなく、一般書では自分にあったものが見つからない、という世代に向けて本を紹介する「ティーンズスコープ」を中学校の学校図書館と連携して作成し、読書離れが進む10代の読書活動を促進します。区立中学校全生徒に配布するとともに、区立図書館や区内の高等学校での活用を進めます。

インターネットによる子ども・ティーンズ情報の提供　拡充

【中央図書館】

「おもしろい本あつまれ」や「ティーンズスコープ」など中央図書館が発行する情報紙の内容をホームページに掲載していきます。また、図書館のホームページ内にある「こどもぺーじ」では年齢や成長に合わせた本の紹介やイベント情報を、「ティーンズコーナー」では新着本の紹介や定期的に特集を組むなど、継続して情報を発信していきます。

また、年齢に合わせた絵本を紹介する「絵本ガイド」を作成し、あだちはじめてえほん事業などで配付していきます。

**成果指標一覧**

**第４章　施策展開**

施策に対する成果指標

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **施策１－１　乳幼児が本に親しむ機会の充実** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| **施策１－２　子どもの読書習慣が身に付く活動の推進** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| **施策１－３　本に親しみ、学ぶための学校図書館の充実と活用** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| **施策１－４　子どもや保護者に読書の楽しさや大切さを伝える啓発活動と情報発信** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |

**施策の柱２　区民の読書に対する関心を高め支える環境の充実**

だれもが本を楽しむためには、自分が求める本に出会う機会があること、生活に身近な場所で本を手に取ることができることが重要です。区民が読書活動を「深め」ていくためには、図書館の資料・空間・サービスを充実し、新たなニーズに対応できる図書館を目指すとともに、区民や民間事業者とも連携して、区民が本にアクセスできる環境づくりを進めていきます。

また、「はじめてえほん」の保護者アンケートでは、図書館がどこにあるか知らない区民が多いため、本や図書館に関する情報が区民に伝わるよう、インターネットの活用など情報の発信に努めます。

高齢や障がいにより、本を手に取ること、読書をすることが困難な方へのサービスの拡大や大活字本や外国語の本の充実を図り、誰もが本に親しめる環境を整備します。

### **施策２－１　区立図書館資料の充実と活用**

区民の多様な関心に応え、幅広い知識や考え方等に触れることができるよう、区立図書館の資料を充実させます。

子どもに向けては児童資料や調べ学習のための資料などの充実を図ります。

時事に合わせたテーマや地域課題の特集などを積極的に行い、区民の関心を高める工夫を行います。

【主な事業】

図書資料の充実と選定方針の明確化 【中央図書館】

区立図書館の図書資料について分野や利用者の年齢構成、時代の要請などを考慮して計画的な選定を進めます。資料は中央図書館で一括選書し、効率的な収集に努めます。

区立図書館の図書資料の選定にあたっては、基準や方針を明確化し、第三者による評価の仕組みを構築します。

区立図書館展示コーナーの充実 【中央図書館】

区民に読書や図書資料への関心を高めてもらうために、時事に合わせたテーマや地域課題の特集を15か所の区立図書館が特色を出して実施していきます。

それぞれの区立図書館では、各館が工夫して特集への関心を高めてもらうための情報発信に努めます。また、図書館外での展示を行うアウトリーチ型の特集についても取り組んでいきます。

### **施策２－２　障がいや言語などにかかわらず読書に親しめる図書資料などの整備**

**第４章　施策展開**

障がいのある方や高齢の方などの読書に対する多様なニーズに対応して、資料整備やサービスの充実を図ります。外国語の本や大活字本などを充実させるとともに、障がいや高齢などの理由で区立図書館に足を運べない方を対象に図書資料の宅配サービスを拡充します。

さらに電子書籍の導入・活用も検討し、区立図書館にアクセスしにくい人々も本に親しめる環境を目指します。

【主な事業】

障がい者向け図書資料宅配サービスの拡大　拡充 【中央図書館】

図書資料の宅配サービスの対象を、障がいの程度や要介護度に応じて拡大します。さらに、宅配サービスを登録した方にインターネットを通じた貸出の申し込みを開始し、提供までの期間の短縮を図り、利用促進につなげます。

読書が困難な方向けの様々な図書資料の整備 【中央図書館】

一般的な活字図書による読書が困難な方に対応できるよう、大活字本、布絵本、LLブック、デイジー（録音）図書、点字図書を整備します。利用しやすい環境として電子書籍の活用を検討します。

### **施策２－３　区立図書館などの空間、サービス、情報発信の充実**

区民の様々なニーズや個々の関心に応えるため、乳幼児コーナー、閲覧スペース、書架等の空間上の工夫や、レファレンスをはじめとするサービス、Wi-Fiや利用者向け電源の設置など情報環境の充実を図ります。

ICタグを活用し、複合施設の機能を活かして、図書館機能の拡大を図り、だれもが利用しやすい環境づくりに取り組み、居場所としての図書館の役割を高めていきます。

また、公共施設や区民・団体等との連携を図り、図書受渡窓口の整備を進めるなど図書館外で区民が本を身近に手に取れる環境の整備を目指します。

区立図書館から本に関する情報発信を積極的に行います。これまでの図書館だより「かけはし」や利用案内などを充実させるとともに、ウェブサイトやＳＮＳの活用を含め、区民の情報環境に応じた発信を行います。また、各学習センターでは、地域の身近な複合施設という特徴を活かし、文化・読書・スポーツに関する情報を一体的に分かりやすく区民に届けることで、読書をしていない人や区立図書館を利用しない人への関心を高めていきます。

【主な事業】

誰もが利用しやすい図書館環境の整備　拡充 【中央図書館】

書架の高さや配置、閲覧コーナー設置などを工夫し誰もが利用しやすい空間づくりを進めます。また、幼児コーナーを充実し、赤ちゃんタイムの啓発などを通じて小さな子どもを連れでも利用しやすい環境を作ります。

ICタグの導入に合わせ、複合施設の機能を活かして、子どもの居場所づくりなど、誰もが利用しやすい図書館を目指します。

図書受渡窓口の充実　拡充 【中央図書館】

駅の近くなどで図書館やインターネットで予約した図書資料等の貸出・返却、個人貸出カードの作成等ができる図書受渡窓口の拡大を検討します。また、駅前などで24時間対応できる図書資料返却ボックスの設置を検討します。

インターネット環境も活用した図書館情報の発信 【中央図書館】

図書館や本の情報を掲載した図書館だより「かけはし」の年４回の発行に加え、ウェブサイトやＳＮＳを活用した情報の発信も行います。

図書館システムには特集本や新着本のご紹介とともに、ご希望の新着本をメールでお知らせする「新着図書お知らせメールサービス」機能があります。気軽に本の情報を得るツールとして利用者へのＰＲを進めていきます。

**第４章　施策展開**

地域学習センターミニコミ紙の発行 【地域文化課】

毎月発行の学習センターミニコミ紙に図書館の最新情報を掲載しています。幅広い人々に手に取ってもらえるよう、各施設や駅構内、商業施設など公共施設以外にも設置します。

**成果指標一覧**

施策に対する成果指標

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **施策２－１　区立図書館資料の充実と活用** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| **施策２－２　障がいや言語などに関わらず読書に親しめる図書資料などの整備** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| **施策２－３　区立図書館などの空間、サービス、情報発信の充実** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |

**施策の柱３　読書を通じた人と人とのつながりの形成**

**第４章　施策展開**

子どもの読書活動を進める、図書館の読書環境の充実を図るなど、読書活動を「広げ」ていくためには、図書館、そして地域において読書活動を支えるボランティアの存在が欠かせません。

どのような活動が求められているかを把握しつつ、読書活動の新たな担い手の育成に取り組みます。

さらに、区民・団体等を支援し、相互に連携・交流を図り、活動機会を増やしていくことで、区民による読書活動の充実を図ります。

### **施策３－１　読書活動にかかわる人材の育成と団体の支援**

読書活動推進の事業・サービスにかかわるボランティアの育成とともに、様々な場面へ活躍の場を設けることで、読書活動を地域全体で活性化していくことを目指します。

また、読書活動に取り組む団体等を積極的に支援します。

区立図書館の職員、保育園や幼稚園の職員や学校図書館の運営・活用に関わる教諭などへの研修を行い、スキルの向上に努めます。

【主な事業】

読み語り講座（入門、スキルアップ）の実施 【中央図書館】

区内各地域で絵本の読み語り活動が活発になるよう、読み語りの入門やスキルアップの講座を開催します。受講した方には講座終了後、各ボランティア団体などを紹介して、実際の活動へとつなげていきます。

団体登録者の利用環境の整備　拡充 【中央図書館】

区立小中学校やボランティア等の団体登録者に対して、貸し出す図書資料の対象範囲の拡大や、インターネットを通じた図書資料の予約受付により、利用しやすい環境を整備します。

あだち絵本シアター　拡充 【住区推進課・中央図書館】

読み語りのイベントを通じて、子どもには絵本の楽しさを、大人には読み語りの大切さを伝えます。

また、民間事業者と連携して読み語り講座を開催するとともに、子育てサロン、児童館や商業施設での読み語りイベントで実践の場を提供し、人材の育成と活動の循環を目指します。

### **施策３－２　読書活動推進のための多様な連携と協創の推進**

読書が個人の楽しみに終わることなく、各人の多様な関心と活動につながることを目指します。

そのため区立図書館においては、本や読書活動をきっかけに利用者同士がコミュニケーションを図れるような事業展開を進めるとともに、区立図書館、地域学習センター、生涯学習振興公社、民間事業者などが連携し、区民の交流を促し、多様な活動につながるような取り組みを行っていきます。

読書をきっかけとしての、文化やスポーツをはじめとする異なる分野への活動にもつながるような機会提供にも取り組みます。

【主な事業】

文化・読書・スポーツ活動協創推進事業　拡充

【地域文化課／スポーツ推進課／中央図書館】

より多くの区民が文化・読書・スポーツの楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きることができるよう、各分野相互の連携事業を実施します。例えば、図書館利用者に対し、運動・スポーツが始められるような働きかけを行う事業を展開します。

アウトリーチ事業　新規 【中央図書館】

図書館に来ない人・来られない人に向けて、まちで本にふれ読書の楽しさを知る場を提供していくために、協創力を発揮して民間施設や出版社、書店などと連携した活動を検討し、実施していきます。

(想定している活動内容の視点)

①　子どもに本の楽しさを伝える。

②　子どもの周囲の大人にも読書の楽しさと子どもの読書活動の必要性を理解してもらう。

③　図書館の様々な利用方法を紹介する。

**成果指標一覧**

**第４章　施策展開**

施策に対する成果指標

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **施策３－１　読書活動にかかわる人材の育成と団体の支援** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| **施策３－２　読書活動推進のための多様な連携と協創の推進** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |

1. ※ リンダ・グラットン／アンドリュー・スコット 『ライフ・シフト　100年時代の人生戦略』、東洋経済新報社、2016、1頁。 [↑](#footnote-ref-2)
2. ※ 協働・協創：協働は、地域課題の解決に向けて、主に行政が目的や手段を設定し、行政からの呼びかけや依頼に応じて、区民が参加・活動する仕組み。一方の協創は、協働では行き届かなかった地域課題の解決や新たな魅力の創出に区民が取り組んでいく仕組みであり、足立区は、多様な主体が自発的に行動しゆるやかにつながるよう、活動を妨げない範囲で活動状況を把握し、必要に応じて支援などを行う。 [↑](#footnote-ref-3)
3. ※ その場合には「広い意味での読書」と表記します。 [↑](#footnote-ref-4)
4. ※一般向けアンケート調査：16歳以上の区民8,000人に対して郵送調査を行い、2,842人（35.5％）が回答。 [↑](#footnote-ref-5)
5. ※小・中学生アンケート調査：区立小中学校に在籍している小学５年生、中学１年生に対して実施し、各541人、550人の子どもとその保護者が回答。 [↑](#footnote-ref-6)
6. ※ 「出版物販売額の実態2017」（日本出版販売株式会社） [↑](#footnote-ref-7)